知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.13
2018秋冬

図書館旧館ものがたり

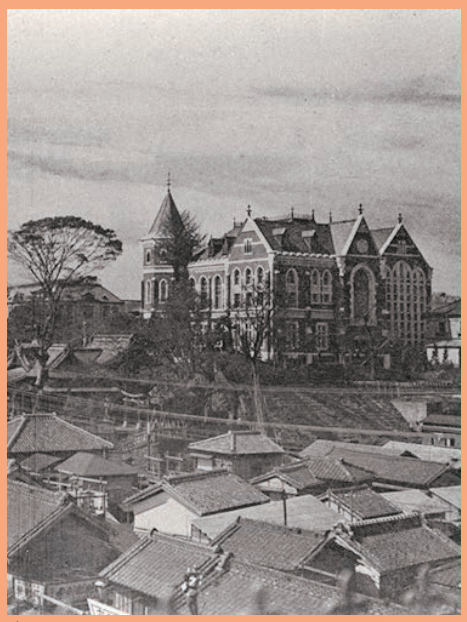
スタッフレポート
タコマ日本人物語
―アメリカワシントン州タコマの日本人関連資料を整理して―

図書館の舞台ウラ
書架管理の美学

地震！火災！
図書館でもしもの事があったら?

主な出来事（2018.9-2018.11）

慶應義塾大学 三田メディアセンター


遠景

1 明治45年（1912）
竣　　工

卒業生・有志の全額寄付によって建造された慶應義塾図書館は、慶應義塾創立五十年の記念事業として約3年の歳月を費やし明治45年に竣工しました。20万冊の収蔵能力と200席の閲覧席を擁する仕様は、当時の大学図書館として他に類のないものでした。設計・監督は曾禰達蔵（そねたつぞう）と中條精一郎（ちゅうじょうせいいちろう）。日本人によって設計された明治末年の代表的な西洋建築としても極めて貴重な存在です。

開館当時の慶應義塾図書館

閲覧室入口

入口上部に
「創立五十年記念」
の文字

階段

ビルの谷間に

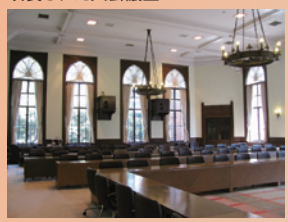
3 昭和30年代～40年代（1955～1974）
蔵書の充実、重要文化財指定

疎開により守られた蔵書はさらに充実し、昭和36年には、閲覧フロアも備えた第3書庫が増築されました。昭和44年に、図書館本体と第1書庫の外面と内部の玄関ホールの内装部分が国の重要文化財に指定されました。ステンドグラスが復元されたのは昭和49年でした。

4 1980年代～2000年代
新館の竣工、旧館は三田山上のシンボルに

1982年に図書館新館が竣工し、煉瓦建ての図書館は、“旧館”、“旧図書館”と呼ばれるようになりました。旧館も大規模な改修・修繕工事が行われ、荘厳な大会議室、福澤研究センターなども置かれる慶應義塾のシンボル的な建物となりました。

この後も三田の山上には次々と校舎や研究棟が建設され、2000年には旧館を模した東館も竣工し、現在では、旧館が多くの校舎や研究棟に囲まれた景色となっています。

改装された大会議室


足場に囲まれた旧館

周囲を掘り進める

地下空間

図書館旧館ものがたり

History of the Old Building

現在、大規模耐震・改修工事中の図書館旧館は、演説館とともに三田キャンパス、慶應義塾のシンボル的な建築物です。
主要部分が重要文化財に指定され、竣工から100年を超える図書館旧館の歴史を振り返ります。

関東大震災の被害

書庫屋根裏の被害

震災後の増築及改修工事

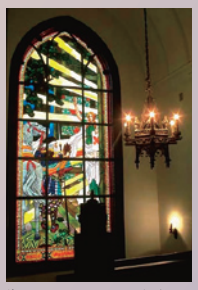
戦災

第２書庫の増築

2 大正～昭和20年代（1913～1954）
震災、戦災をくぐり抜けて

大正12年の関東大震災では、煉瓦建築の各所に大きな亀裂などが生じました。大正13年から昭和3年にかけての修築の機会に、第1書庫の隣に第2書庫が増築されました。

第2次世界大戦では、昭和20年5月の空襲で、書庫を含む屋根部分や八角塔、ステンドグラスを含む本体部分の内部が炎上しました。屋根の応急処置に引き続き、昭和24年から翌年にかけて戦災部分の大修築が行われました。


復元されたステンドグラス

5 2010年代～現在
開館100年を超え、保存のために耐震・修復工事

2012年に開館100年記念を迎え、記念式典なども開催されました。

東日本大震災後は建築物の耐震調査が各地で行われましたが、老朽化した図書館旧館にも、耐震補強工事を含めた改修工事が必要と判断されました。2016年から準備期間に入り、12月には入口正面のヒマラヤ杉や周辺の樹木が伐採されました。2017年に仮囲いの設置から工事が開始され、11月には建物周囲への作業用外部足場が設置されたため、現在、旧館の全容は見えなくなっています。

建物自体が重要文化財であり一般的な耐震工法をとることはできないため、耐震工事には、免震レトロフィット工法が用いられています。建物の下に免震層を設けて建物を免震化する工法で、耐震壁や筋交いが不要となるため、建物の意匠を損なうことなく耐震性を確保できます。工事は、2019年5月まで行われる予定です。

タコマ日本人物語

――アメリカワシントン州タコマの日本人関連資料を整理して――

川本 真梨子
（メディアセンター本部受入目録担当）

シアトル、というと私たち日本人にも馴染みのある、アメリカワシントン州の都市をすぐに思い浮かべる人も多いと思います。では、そのシアトルから車で南に1時間ほどに位置する、タコマという都市はご存知でしょうか？ 現在、ワシントン州では3番目に大きい都市となるタコマ。実は日本とは、切っても切れない深い関係を持っています。

2017年5月から11月までの半年間、シアトルに位置するワシントン大学東アジア図書館に、Visiting Librarianとして在籍し、大学図書館業務を経験したり、研究活動を行う機会をいただきました。滞在期間中は研修の一環として、ワシントン大学図書館がスペシャルコレクションとして保管する、かつてタコマにあった日本語学校（以下タコマ國語学校）に残されたコミュニティ資料を整理する作業に携わりました。

http://archiveswest.orbiscascade.org/ark:/80444/xv19039

タコマと日本の繋がりは、日本人がアメリカへ新天地を求め入植を始めた1800年代後半まで遡ります。港湾都市であるタコマは、ワシントン州として初めて日本を結ぶ航路と領事館が設けられた都市です。その後日本とシアトル間の航路が開通し、領事館が移転するまでの間、日本からの玄関口としてその役割を果たしていました。

更にワシントン大学タコマキャンパスがある場所も、タコマと日本との関係を語る上ではかかせません。大学がある場所は、かつて日本人街が発展していた地域でもあり、タコマ國語学校が建立していた地でもあるのです。入植開始後から、日本人移民やその子孫となる日系人はタコマにコミュニティを形成し、生活を繁栄させていきました。1911年に開校したタコマ國語学校は、日系人を対象に日本語教育を行っており、異国での日本人コミュニティ発展の一役を担う機能がありました。

しかし、1924年の移民法を機に、日本からアメリカへの移民は禁止されます。そして第二次世界大戦に伴う日本人移民・日系人の強制収容に伴い、タコマから日本人や日系人の姿は消え、1942年にタコマ國語学校も閉校となりました。その後、日本人街には他の地域住民が住み着くこともありましたが、タコマ國語学校の校舎をはじめ、長い年月の間、そのままの状態で放置された建物も多くありました。

1927年当時のタコマ國語学校（UW Tacoma Library内）

日本人街がなくなり数十年の時を経た1980年代、タコマ國語学校はその歴史的意義により、市で保存されることが決定されます。従来アメリカにおける日系人研究を行ってきたワシントン大学も、タコマにおいて、日系人に関連する建物の保存や、地域コミュニティに関する研究活動に取り組むこととなりました。タコマキャンパスにはタコマ國語学校の記念碑が建立され、今でもその碑や保存された一部の建造物などから、当時の名残を感じることができます。

タコマ國語学校に関するコレクションには、学校運営に関連する事務資料のほか、学校催事の案内や教材、生徒が残した成果物（日誌、文集、テスト用紙、習字など）などが含まれています。紙質が悪く、劣化により触れば崩れてしまうような資料もあれば、和紙で残された習字作品は状態がよく、つい先日書き写したように思えるものもありました。時代背景としては、日本人コミュニティの生活環境は日に日に厳しくなっていたと考えられますが、その中でものびやかに逞しく生活し、成長する生徒たちの姿を資料から感じることができます。

タコマ國語学校生徒の文集.「タコマ冨士」とは
ワシントン州北東部に位置するレーニア山のこと

帰国後、東アジア図書館で研修のコーディネーターを務めてくださった日本研究司書の田中あずささんより、大変嬉しいご報告をいただきました。シアトルの日系老人ホームでこのコレクションを紹介したところ、当時学校に在籍していた生徒の方が名乗り出てくださり、その方とお兄さんが残した作品が含まれていることがわかったそうです。自分が取り組んだことが、このような形で資料と人を結びつけることに繋がったことを本当に嬉しく思いました。

シアトル老人ホームでの写真
（中央）Ms. Nakagawahara,（左）UW Libraries Curator,
Anne Jennerさん,（右）田中あずささん

今回の研修期間中に整理した資料は、タコマ國語学校から発見されたもののほんの一部です。資料の大半は日本語であり、言語的に携われる人員が限られ、整理を進めたくとも難しい状況もあります。また、今回の整理対象には唯一無二となるアーカイブ資料も多く含まれていました。これらを一つ一つ丁寧にみてゆくには、膨大な時間を要します。まだまだこのようなコミュニティ資料があることを目の当たりにし、長期にわたり調査や整理を行うことのできる人員の必要性を実感しました。

異国の地で誰にも知られずひっそりと眠っている資料が、整理され可視化されることで、それらを必要とする研究者や関係者の方の目に、1点でも多く触れることを願っています。

書架管理の美学

図書館の書架は、請求記号に則って常に正しく、美しく並んでいることが求められます。資料を探しやすいよう整然と保つことは、閲覧担当に課せられた重要な任務の一つですが、これは決して簡単なことではありません。いかにして膨大な資料群を書架に収め、秩序の維持に奮闘しているか、その一部をご紹介します。

書架移動

「何をどうやってもこれ以上は1冊たりとも入らない」「耐震補強工事のためにこの階の資料は丸ごと別の棟に移動せよ」というような、やむにやまれぬ事情に迫られて、資料を書架から書架へ動かすことがたびたびあります。時間を割き、多くのスタッフが作業した挙句「入りきらなかった…」という末路はあまりに悲しく、時にはメジャーを使い、書架の幅や資料の厚みを概算しながら、向こう数年は新着資料が余裕を持って収まるよう、事前に緻密な計画を練ります。そして、利用者の少ない休みの時期に一気に作業を行います。元の書架からブックトラック（台車）に本をどんどん積んでいき、時には建物から建物へと運搬して、移動先の書架へ収めます。

シェルフリーディング

日々の利用や書架移動により、放っておくと資料の並びは乱れていきます。図書館スタッフと「学生アシスタント」が資料に貼ってある背ラベルをひとつひとつ目視で確認し並び順が正しいか確かめていく作業を「シェルフリーディング」と呼びます。

小さな英数字の羅列を根気よく見ていくと、9の中に6など似ている数字が紛れ込み、本来の居場所でないところに並べられている本に気付きます。これらを丁寧に掬い上げていくことは、地味ではありながらも重要な作業です。

インベントリ

年に数回行う資料の棚卸し作業を「インベントリ（蔵書点検）」と呼びます。すべての蔵書がデータ通り書架に在るか毎年確認できれば理想的ですが、膨大な量なので、エリアごと、資料群ごとにリストを作成し、利用者の少ない時期を選んで数年がかりで点呼をします。一人がリストの請求記号を読み上げ、もう一人が本の背ラベルを目視して本の代わりに返事をします。同時にデータとラベルとの不一致や、並び間違い、行方不明になっていた本、傷んだ本などを見つけてひとつずつ正していくのです。呼吸を合わせ、速さと正確さを求めて次々と読み進めていく様はまるでスポーツです。（閲覧担当）

学生アシスタント（アルバイト）募集！

── 三田に通学している学部生・大学院生の方 ──

忙しい大学生活のなかで、落ち着いて黙々と作業する時間を持ってみるのはいかがですか。4月から勤務できる方のご連絡をお待ちしています！

詳細はメールにてお尋ねください ➔ mmc-cir-group@keio.jp

地震！火災！図書館でもしもの事があったら？

三田メディアセンターでは、慶應義塾として定められた防災計画の他に、利用者のみなさんの安心・安全を第一に考え、独自の緊急事態マニュアルを作成しています。地震、火事などの災害発生時には全館に緊急放送を流し、スタッフが分担してみなさんを安全な場所へ避難誘導します。そのために、三田祭の閉館時などを利用して、スタッフ全員で防災訓練を行っています。昨年は、模擬的に火元を特定した避難誘導の実践を行いました。消火器の使い方や消火栓の位置を確認し、同時に地震の場合も想定して書庫や書架の確認も実施しました。訓練後には全員で話し合い、緊急時に必要な物品の購入や補充なども怠らないようにしています。また、災害を経験した他大学や図書館などの体験談を参考にすることもあります。

三田メディアセンターで近年最も被害の大きかった災害は、やはり2011年3月11日の東日本大震災です。新館では約8万冊、旧館で約1万5千冊の本が床に落下しました。書架から落ちてくる本は危険ですので、地震の際は書架から離れてください。シャンデリアや蛍光灯の下からも離れましょう。まずは自身の安全が第一です。揺れがおさまったら、落ちついてスタッフの指示に従い行動してください。停電時は館内が真っ暗になります。エレベータも緊急停止する可能性があります。非常灯があるので非常口を目指してゆっくり移動してください。折を見て階段の場所も確認しておくとよいでしょう。

地震・火災などの自然災害の他に、不審者侵入、不審物放置、急病人発生やその他想定外の事態が発生するかもしれません。日頃から危機意識を持ちマニュアルの見直しを行い、今年も訓練を計画しています。

（総務担当）

2011年3月11日震度5強時の書架

非常灯

非常口を目指して、ゆっくり移動！

主 な 出 来 事（2018.9－2018.11）

第30回慶應義塾図書館貴重書展示会
「インキュナブラの時代 ―慶應義塾の西洋初期印刷本コレクションとその広がり―」開催

2018年10月3日～9日、丸善・丸の内本店ギャラリーで開催されました。第30回という節目を飾るテーマは慶應義塾図書館の誇る貴重書コレクションの一つ、インキュナブラ（活字による15世紀の西洋初期印刷本）です。安形麻理文学部准教授の監修により、所蔵する約50点のインキュナブラを初めて一堂に展示し、当時の技術の粋を尽くした精緻で美しい活版印刷本の数々をお目にかけることができました。また、活字の鋳造機や復刻活字など、本を作るために必要な道具の現物や、実際に触ってページをめくる体験ができるインキュナブラの精巧な複製版の展示、フォリオ、オクターヴォなど紙を折り畳む回数によって本になった時の透かし模様の出具合が違う事を実感できる折丁作成体験など、見学するだけではなく、活字本が生まれるまでの流れを体感することができる展示会となりました。2回ずつ開催された講演会とギャラリートークも毎回盛況で、会期全体で1,459人の来場者がありました。

図書館展示室：2つの企画展示を開催

「古文書コレクションの源流探検 ―反町十郎、反町茂雄、木島誠三、木島櫻谷、そして…」（8/20－9/8）

尊氏や信長など有名武将満載の古文書コレクション「反町文書」とは？

古文書の魅力と背景を探り、反町文書を形成したコレクターたちの面影を見せる展示です。2017年夏に丸善で開催した貴重書展示会のダイジェスト版で、文学部の中島先生と上野先生のギャラリートークでは武将たちの意外な素顔も知ることができました。

「憧れの仏蘭西文学がやってきた」（9/18－11/2）

三田の文人が貢献した、仏文学の日本への受容を追う展示で「日仏交流160周年」記念事業認定を受けました。フランス本国に次ぐ規模を誇るポール・ヴァレリーの書簡コレクションは、2009年の初公開以来のお目見えです。法学部の大出先生と笠井先生のフランス愛あふれるギャラリートークは来場者の心を惹きつけました。

日仏交流160周年
160e Anniversaire des relations franco-japonaises

編 集 後 記

年3回発行となって初めての年内3号め。晩秋の発行に相応しいノスタルジックな記事が多くなりました。図書館旧館の工事は足かけ4年、来年夏前にリフレッシュした姿を見られる予定です。この号の表紙写真は、旧館工事の状況を見る機会に恵まれたスタッフが（高所の足場にビクビクしながら）大時計を間近で撮影したものです。在学期間に工事中の旧館しか見られない皆さんは、卒業してからも是非遊びに来てください！

編集・発行　慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1625　FAX 03-5484-7780
発行日　2018年12月1日
印　刷　有限会社 梅沢印刷所

http://www.mita.lib.keio.ac.jp
Twitter: @Keio_MitaLib
バックナンバーはこちらから ⇨